

第31回 自動車整備技術の高度化検討会 —議事概要—

■議事（１） 事業規制アップデートの報告

【資料２】事業規制アップデートについて 関連質疑

発言者	発言内容
JAIA	○（別添 P.8 スキャンツール等により点検可能範囲の拡大について、）スキャンツールで確認可能な作業等は日進月歩で拡大していると承知している。スキャンツール等での点検可能範囲は今後も見直していただけるのか。
事務局	○（ご指摘の通りのため、）状況を把握しつつ、都度見直していきたい。
自工会	○今次改正に感謝する。改正内容については一部懸念事項もあるが、JAIA ご指摘のとおり技術は日進月歩で進化することも踏まえ、引き続き、国土交通省に情報共有しつつ、可能な範囲で見直していけるよう協力させていただきたい。

■議事（２） 令和 7 年度困りごと調査の経過報告

【資料３】「令和 7 年度困りごと調査」途中経過 関連質疑

発言者	発言内容
自工会	○アンケートの回答件数は今後も伸びていくのか、それとも横ばいか。回答件数が多いほどより深く層別の分析ができると思う。
事務局	○（回答件数の伸びについて、）アンケート開始当初はかなり伸び、そこから徐々に下がってはいるが、引き続き週に数件は伸びている状況である。したがって、12 月のアンケート回答受付終了に向け、まだ様々な意見が入ってくるものと思われる。
自工会	○もし事業者への回答の呼びかけが必要であれば、可能な範囲で協力させていただく。
須田座長	○有益なコメントに感謝する。去年は 116 件とのことなので、かなり増えている。
自工会	○整備マニュアルに関して頂いた声について、可能な範囲で詳細が分かれば、我々も然るべき対応はさせていただきたい。 ○純正スキャンツールの入手窓口については国土交通省 HP にも掲載しているが、整備事業者には完全には周知できていないと思われる。よりよい案内方法があるかもしれない。 ○整備事業者にとってよりよい手法について、当会に限らず、日整連、ツールメーカー団体とも連携し、アンケートの最終結果も含め、また議論させていただきたい。

■議事（３） スキャンツールの機能向上に向けた取組み

【資料４】スキャンツールの機能拡充（「標準仕様のあり方 WG」報告） 関連質疑

発言者	発言内容
古川委員	○基礎 OBD 情報や高度 OBD 情報は、具体的にはどのようなものか。
事務局	○基礎 OBD 情報は、一般的な DTC 情報や排ガス情報など、現在既に読み取ることができている情報と定義しており、読み取るだけであればセキュリティ上大きな問題にはならないと認識している。 ○高度 OBD 情報は、自動車メーカーによるが、エーミング等のセキュリティに影響を及ぼす可能性のある情報と定義している。標準仕様スキャンツールにおける当該情報での作業の必要性については、引き続き整理が必要である。
廣瀬委員	○スキャンツールの機能拡充スケジュールについて確認したい。高度 OBD 情報まで扱うとなると、サーバー認証等、セキュリティに関するメーカー間の考え方の統一が必要である。 ○また、情報提供の対象に継続生産車が含まれるかについても教えていただきたい。
事務局	○これから検討していく状況である。自動車メーカーの開示内容によって継続生産車も対象とできる可能性はある。今後実施するセキュリティに関する調査の中で、できること・できないことを整理していきたい。
廣瀬委員	○自動車ユーザーに対する告知方法に関する観点もあると思うので、検討をお願いしたい。
自工会	○標準仕様スキャンツール開発促進と純正スキャンツール活用拡充との 2 つの軸があり、特に後者は議事（２）の困りごとにも関わってくるため、並行して考えていきたい。 ○どこまで情報を拡大するかについては、現状、自動車メーカーによってセキュリティ要件が異なり、これらの統一は開発の観点から難しいが、第三者機関等での対応など様々な内容の検討が予想されるため、実態調査や一部運用開始などを通じ、今後も議論を進めさせていただければと思う。
須田座長	○第三者機関での中継については何かあるか。
事務局	○第三者機関を入れることで一定程度の機能が構築できるかどうかは極めて重要な問題と認識しており、国土交通省としてもしっかり取り組んでまいりたい。 ○自動車メーカー、第三者機関でのコミュニケーションは必要不可欠であり、特に前者の協力は不可欠のため、しっかり議論していきたい。
事務局	○標準仕様スキャンツールの開発促進については、これまでの標準仕様 WG での議論なども含めながら新スキームの明確化を図っているところ

	<p>ろ。</p> <p>○純正スキャンツールの活用機会拡充については、実際に整備事業者が使用することで新たに課題が見つかると思われるので、国交省としてしっかり公表・説明を行っていくとともに、日整連の協力も得ながら周知活動に努めていきたいと考えている。</p>
日整連	<p>○自動車整備業界では様々な課題を抱えており、将来的に整備難民が生まれないよう、国交省はじめ自工会、自機工などを含め早急に進めていきたい。</p> <p>○周知活動等については、当然協力させていただく。</p>
廣瀬委員	<p>○ユーザー認証など、セキュリティを確保しつつシステムを構築することは一番難しいと考える。そこで、同様なシステムの構築経験について伺いたい。</p>
事務局	<p>○OBD 検査でのユーザー認証を参考としつつ、他によりよい手法がないか含め議論していきたい。</p>
廣瀬委員	<p>○各自動車メーカーのサーバーと中継することを踏まえると、セキュリティについては各社・国交省で共通認識を持つ必要があると思う。その見通しはいかがか。</p>
事務局	<p>○セキュリティの考え方は各社で異なるため、自動車メーカーごとに個別に相談する必要がある。(そのため、現時点で共通認識の方向性を示すことは難しい。)</p>
廣瀬委員	<p>○それらを踏まえて(高度 OBD 情報の提供まで)3 年の期間を提案されているとの理解でよいか。</p>
事務局	<p>○そのとおり。新たな課題の発見等によりやむを得ず延期する可能性もあるが、3 年を目標として議論を進めていきたい。</p>
須田座長	<p>○純正スキャンツール活用機会拡充について、最初の 1 年間は一部地域に試験導入とのことだが、具体的な場所は検討されているか。</p>
事務局	<p>○標準仕様 WG で話し合いを進めているところであり、具体的な地域はまだ決まっていない。</p> <p>○ただし、多くのサンプルが必要なので、活用される回数が多く考えられる地域を念頭に決めたい。</p>
須田座長	<p>○(失敗すると全国展開に繋がらないため、)試験導入の結果はかなり重要であると認識している。</p>

■議事(4) 令和7年度の人材確保対策に向けた取組み

【資料5】人材確保 WG について 関連質疑

発言者	発言内容
自工会	<p>○「自動車整備士等の働きやすい・働きがいのある職場づくりに向けたガイドライン」の改訂は、自動車メーカーの立場から見ても大事な部分が</p>

	<p>集約されており、非常に見やすい。</p> <p>○当会としてはディーラーに対する周知・活用促進について悩んでおり、強制ではなく自然に取り入れられるような環境が構築できるよう、引き続き議論させていただきたい。</p>
須田座長	<p>○（国土交通省では、）マニュアル等をどのように広報しているのか。</p>
事務局	<p>○ガイドラインは国土交通省 HP に掲載している。（そのため、どの事業者でも活用可能である。）</p> <p>○具体的な周知の取組みとしては、各地方運輸局にて開催している経営者向け人材確保セミナーや、人材関係のイベント等で積極的に周知している。</p>
自機工	<p>○外国人材の更なる受入環境整備について、ルビ振りなどの他言語話者への対応という話があったが、人材確保 WG の委員として、例えば日本語学校など言語学校の有識者も加える予定はあるか。</p>
事務局	<p>○各団体でも試験作成の中でノウハウを蓄積しており、比較的これに精通している方もいるため、まずは、その方々のご意見を伺う。</p> <p>○加えて、各団体での困りごとを把握することに努めたいが、全体の論点のうち1つとして整理し、必要に応じて専門家の意見を伺って反映していくことも検討したい。</p>
廣瀬委員	<p>○取組み内容に応じて、短期・長期など課題解決までのスパンを最初に整理する必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>○短期・中期・長期課題に分けて議論させていただきたい。中でも処遇改善や事業環境の整備など早急に一定の施策を打つ必要があるものは、少なくとも来年度の初めまでに答えを出していかなければならない。</p> <p>○人材確保については、すぐに答えが出せるものではなく、できるものから取り組んでいきたいため、中長期的課題として取り組む。（まずは今年度に議論するが、）引き続き論点が残るようであれば、来年度いっぱいをかけて議論していくといった、切り分けをしっかり示したい。</p> <p>○外国人材の受入環境整備については、例えば育成就労制度は令和9年4月から始まるが、準備を進めている日整連・日車協連から状況をご報告いただきつつ議論を進めることを想定しているため、来年度までまたがる中期的課題になる。ただし、試験問題については、新制度資格での試験準備に差し障りがないよう、可能であれば今年度中に結論を出していきたい。また、受入れに関する課題は、事業環境の整備や育成就労制度と一部重なる部分もあるが、早くできるものから進められるよう、まず今年度では調査を進めていきたい。</p> <p>○まとめると、「自動車整備士試験問題の外国人対応」を最も早く進める（今年度中に結論を出す）。次に、支援策や制度面など議論が必要なものを進め、できるものから来年度の夏までに結論を出す。その他は来年</p>

第 31 回自動車整備技術の高度化検討会 (R7.10.27)

	度いっぱいである一定の議論ができればよいと考えている。
廣瀬委員	○各課題のスケジュール感や優先度を決めたうえで議論を進め、今後の検討会でも報告できればよいと考えている。
須田座長	○廣瀬委員には人材確保 WG 委員長としてよろしくお願いしたい。
古川委員	○人材確保について、整備士になってよりスキルを高めたいと思えるような、モチベーションの元になるようなアイデアはあるか。例えば日整連が主催している自動車整備技能大会など、若者を引きつけるようなものがあればよいと思う。
事務局	○業界に入った人に残っていただけるようにするのが最優先であるので、ご指摘のとおりモチベーションを高く保つのは大事だと思う。 ○まずは、ガイドラインの活用によって働きがいのある職場環境を整えることを考えているが、整備士個人のマインドに響くような取組みについては、例えば現役の整備士や、業界にはいないが整備士資格を持った人などにアンケート調査することも考えてみたい。(その結果を踏まえ、他業界での取組みなどを参考としつつ、若者のモチベーションを高くする取組みについて検討したい。)
須田座長	○(本検討会の 2 日後から開催される) ジャパンモビリティショーにおいては、人材に関する取組みを行う予定はあるか。
自工会	○(人材確保 WG での議論の内容とは少し趣旨が異なると思うが、) 小学生やそれ以下の子どもたちを対象とし、整備士とはどのようなものかを知っていただけるよう、関係団体と連携して整備士体験イベントを 2 週間にかけて行う予定である。こうした活動から、少しでも自動車整備士を目指す人の母数を広げていくことを目標としている。
須田座長	○国土交通省では何かイベントを行うのか。
事務局	○(自工会からご説明いただいた整備士体験イベントについて、) 国土交通省も名前を連ね、一緒に取り組む予定である。
自工会	○人材確保については、自動車整備業に限らず、目の前の人材を確保するだけでなく、将来の人材についても確保できるよう訴求を続けなければならないと思う。 ○(このイベントと人材確保 WG でのターゲット層は異なるものと認識していたが、) 今後、人材確保 WG では訴求対象として高校生以下もターゲットとして考えるのか。
事務局	○自動車整備士を目指す人を増やすため、国土交通省では各運輸支局長による高校訪問を行っていたが、その際に高校生では(既に進路決定を行っているため)遅いとの指摘があり、高校生以下の例えば小学生などを対象としたアピールも重要であると認識している。そのため、議論の可能性は排除せず、ターゲットを広く捉えていくべきだと考える。

自工会	○各地域の整備振興会や運輸支局で行っている様々なイベントを通じて情報発信することも一手だと思う。人材確保 WG 等を通じて（資料中の論点とは）別の課題が出てくれば、そういった点についても議論させていただきたい。
須田座長	○余談だが、大学では中学生をターゲットとした取組みを行っている。
事務局	○（我々の取組みの中で、）中学生をターゲットとしたものが無いのは課題であると思う。 ○国土交通省では、小中学校から要望により出前講座を行っているが、伝手がないため厳しい。最近では、自工会や整備振興会、さらにはディーラーの協力も得ながら運輸支局が行う小学生向けのイベントも増えているので、関係者と議論させていただきつつ、小学校高学年～中学生に対してどう働きかけていくのか、腰を据えて進めていきたい。
須田座長	○整備学校にも影響があると思うが、いかがか。
JAMCA	○（資料等に記載されてある内容については、常々そのとおりに思っているが、）整備学校の現場としては、日本人の 18 歳人口が減っていく中、留学生に頼らざるを得ないということを再認識してほしい。留学生については様々な課題（採用側の充実、入学する学生へのサポート、費用面等）がある。留学生への対応について優先度を高くして検討していただかないと非常に苦しい。 ○整備学校では中学校の出前授業も多く手掛けており、参考になることがあれば WG 委員を通じてお伝えしていこうと思う。引き続きよろしくお願いしたい。
事務局	○ご指摘のとおり、外国人へのサポートが足りていない可能性はあるが、視点を転換すると、外国人を受け入れる整備事業者側の目線からどういった対応を行えばよいのかといった観点は、（今後の人材確保対策の中で）極めて重要となる可能性を感じている。 ○外国人材を受け入れる側・送り出す側の観点は、広く外国人材の受入れ環境整備の論点の中で議論していく可能性があるため、これも踏まえたうえで、どのような論点があるのか調査を行いつつ、業界と協力しつつどのような取組みを進められるのか、しっかり受け止めて考えていきたい。引き続き様々なご提案等を頂ければ幸いである。
古川委員	○（少し話はそれるが、）昨今、生成 AI が人間の代わりに仕事を行う事例も増えている中、自動車整備においても、生成 AI をうまく使うことで業務を効率化できるのではないか。
事務局	○意見としてしっかり受け止めるが、生成 AI は書類作成など情報の取扱いに長けている一方、（物理的な作業の多い）整備事業にどのように活用できるかを勉強する必要がある。

	○誤った情報を信じることをしないよう、生成 AI の使用には注意を払う必要はあるが、使えるものは全て活用するといった視点が不足していた可能性はあるため、しっかり検討していきたい。
須田座長	○廣瀬委員におかれては、本日の議論を踏まえ、人材確保 WG を上手く進めていただきたい。

■議事（５） 今後の課題

【資料６】今後の課題 関係質疑

発言者	発言内容
須田座長	○（議事（４）で古川委員から発言のあった）生成 AI の活用検討については、今後の課題として捉えることになるのか。
事務局	○生成 AI の活用についても検討していきたいため、どのような論点として受け止められるかを含め、国土交通省にて考えたい。

■座長挨拶

発言者	発言内容
須田座長	<p>○スキャンツールの機能拡充については、具体的に新たな提案及びスケジュールが出され、各委員の合意が得られたかと思うので、しっかり進めていただきたい。</p> <p>○人材確保 WG についても、本日は様々なご意見があったため、それらを踏まえて進めていただければと思う。</p> <p>○今後も、本委員会において、整備技術の高度化への対応が進んでいくことを期待したい。</p>

（凡例）

自工会：日本自動車工業会

日整連：日本自動車整備振興会連合会

日車協連：日本自動車車体整備協同組合連合会

全自短協：全国自動車短期大学協会

JAIA：日本自動車輸入組合

自機工：日本自動車機械器具工業会

JAMCA：全国自動車大学校・整備専門学校協会

事務局：国土交通省

以上